



# 学校だより

西寺尾第二小学校  
10月  
令和5年9月25日



You can do it! (あなたならできる!)

校長 宮崎 里子

草むらの虫たちのにぎやかな声に、季節のうつろいを感じます。日中の暑さも少しやわらいできました。保護者の皆様にはいつも子どもたちの体調管理を気にかけてくださり、ありがとうございます。

さて、本年度、プロ野球チーム横浜 DeNA ベイスターズには「トレバー・バウアー」というアメリカから来日した投手が在籍しています。

バウアー選手はユーチューブを使って自身の練習内容や調整法を惜しみなく発信して人気を博しています。自分の練習プログラム、心拍変動、消費カロリー、睡眠時間の計測などすべてスマートフォンのアプリを使用してデータ管理を行い、投球の軌道や回転数を調べる計測機器はいち早く個人で導入したそうです。データを分析し、理論立ててパフォーマンスの向上を目指す姿から「**投げる科学者**」とも呼ばれています。

そんなバウアー選手が、8月30日の試合中、送球処理で大ケガを負ってしまいました。歩くのもままならない状態で今季はもう試合ができない見込みとされています。日本で活躍し、最優秀投手賞を目指していたバウアー選手。このハプニングには、どんなに気持ちが落ち込んだことでしょう。

ところが、ケガをした後のユーチューブで、バウアー選手は次のように語っています。  
「頭の中に声が聞こえるんだ。**You can do it!** 簡単ではないけれど。これで終わりだと思っていない。」

これまでのバウアー選手の体調管理や練習計画は彼流のデータの蓄積と分析による合理的根拠に基づいたものです。私は、こんなにも絶望的な状況下に「You can do it!」と自分を鼓舞できるバウアー選手の明るく前向きな思考は、データに基づき回復への道のりを見通せる知見に紐づいているのではないかと思うのです。

教育界にも「EBPM」(Evidence Based Policy Making: 証拠に基づく政策立案)という考え方が浸透しつつあり、目的に向けてデータを活用し、合理的根拠に基づいた政策を企画することが求められるようになりました。

これまで教育現場では子どもをみとるのは教師の経験に基づく観察や感受による見立てがメインでした。もちろん、これらの感覚は教師が精進し磨かなければならない大切な資質です。

これからの教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) とよばれる教育におけるデジタル化推進では、データ利活用の EBPM が肝要だとわわれています。本校が導入したデジタルドリル「スマイルネクスト」もその一つにあたります。ドリルの活用により、間違えた課題には類似問題等が提示され、つまづきがどこなのかを明確にすることができます。これからはこのようなドリルや学習状況調査などのデータを根拠とし、学びの方向性を見出せる教師、そして子どもたちの育成も目指したいと考えています。

子どもたちに対する温かいみとりとともに、データによるエビデンスをもって「**You can do it!**」と勇気づけを行うことができるよう、私たち教職員一同、励んでいきます。